

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600096		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グループホーム武蔵ヶ丘		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘北1丁目8-1		
自己評価作成日	平成27年10月15日	評価結果市町村受理日	平成27年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成27年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成26年11月に開設した新しい事業所です。「私たちは、安心・安全をテーマに、ほっとできる心地よい空間づくりを目指しています。」「人生の大先輩である年長者を敬い、お一人お一人の尊厳を大切にします。」「自由で自分らしくいられる、否定しない介護を目指します」の三つを理念として掲げ、毎日、元気に楽しく過ごして頂ける様に職員一同頑張っています。ご利用者様の個々の個性を受け入れ、生活の中で、何らかの役割と楽しみを持って頂ける様に工夫しています。明るく、きれいなホームの中で、楽しくレクリエーション、体操、カラオケなど活発に活動して頂き、「今日も楽しかった」の一言を頂くことを糧に私たちも皆様と一緒に生活しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の静かな環境の中に開設して1年を迎えたホームでは、まず勉強会を重ねて受け入れた在宅酸素利用者等個々の状態に応じたケアをしたいと志向を高めて臨む姿勢に、職員教育や業務改善への意欲と初期基盤づくりへの取り組みが表出している。また、臥床中心での入居にも真摯に向き合い、現状維持のみならず回復へと繋げる等職員の持つケア力が生かされ、転倒事故の無いこの一年の生活は安全・安心に向き合い「ほっとできる心地よい空間」を目指した成果が表れている。家族も行事への参加や食事介助に頻りに訪問される等思いも深く、その思いがホーム運営に生かされ、多くのアクティブティはメリハリのある日常及び明るい雰囲気を出している。運営推進会議も率直な意見交換の場としての機能を果たしホーム運営に反映させており、地域交流室の有効活用等により地域との関係性の深まりとともに確固たる基盤が築かれるものと大いに期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で、出勤の全職員で唱和し、共有している。時には、利用者様を交えてすることがある。基本理念に沿って支援する姿勢を明確にしている。	開設に当たり運営者とともに考えた理念を、朝からの唱和及び出勤帯によりまずは理念を確認したうえでケアをスタートさせ、管理者は安心と安全に注視することを常に職員に投げかけている。また、開設して1年、“輪”作りへの努力と疑似家族として節度あるケアに努めること等理念をケアの原点として捉えている。まだ一年ではあるが、明るい家庭的な雰囲気を作られている。	開設前から地域への説明会の開催や、名前を地域名としたり、馴染みあるユニット名等地域密着型としての意義を捉えている。玄関への理念の掲示や地域に向けた啓発方法を検討いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントには、積極的に参加している。 ボランティアの方々の訪問時には、一緒に楽しい時間を過ごしている。	地域の中にあるホームとして組に加入し清掃活動や草取り、組の餅つき等区長や組長の情報により参加している。また、保育園児との交流や地域サロンの見学・民生委員の研修受け入れの他、近隣住民からの声かけもある等徐々に地域住民にも認識されてきている。職員は住民へのあいさつの励行や“いつでもお入りください”のと玄関先への掲示もあり、今後近隣住民の立ち寄りや訪問に繋がるものと期待できる。	区長からの行事等情報が発信を活用し、地域の中へ出かけるきっかけとして生かされることを期待したい。また、縁側での認知症カフェへの思いも熱く、地域との交流の接点や、地域への啓発の一環として実現に向け尽力されることを大いに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へ地域の方々の参加があり、現況報告をするとともに認知症の方の行動や様子等を説明し、サービスへの理解や実際に行っている支援の方法等を話している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。ホームの現況報告にアドバイスを受け、取り入れることもあります。	今年1月より行政・地域包括・区長・組長や民生委員、家族代表をメンバーとして2ヶ月毎に開催している。ホームの運営と参加委員からの地域情報等を得る機会となり、地域へ出るきっかけ、相互交流として生かされている。	参加委員からの意見が多く出されており、充実した運営推進会議であることが確認された。委員の意見や地域行事等の情報の進捗状況を説明することで、更に意見や具体的な提案等を話し合う機会としてこの会議を更に有効にサービスに反映されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、毎回参加がっており、相談や確認事項などの連絡を取っている。	行政開催の研修や勉強会への参加及び運営推進会議の中で意見を投げかけている。また、役場や地域包括に定期的に空き状況を伝え、困難事例の相談には適切なアドバイスを得るなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会を開き、職員全員が周知し、ケアを実践している。玄関・窓の施錠については、地域住人の皆様から、ホームが道路に面していることで、安全確保の為に施錠して欲しいと要望があり、現在施錠をしている。	身体拘束廃止に向け研修会を開催している。拘束は入居者の自立を阻害するものであると全員が認識しているが、転倒リスクが高い場合には家族の同意を得てセンサーを利用し、地域からの要望により玄関は施錠している。また、帰宅願望や不穏等個々の心身の変化を把握し、家族との外食等協力を得ながら支援している。	ホームの取り組みである抑圧感の無い暮らしと、生活の場としてふさわしい環境であること等運営推進会議の中で説明いただき、地域住民の理解を得るよう努められることが望まれる。まずは、職員体制によっては時間的な開錠を全員で検討されることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での研修を行い、虐待の意識付けをしている。職員同士が、相談・助言をし合う事で、ストレスにならない様になっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内にまだ対象者がいない為、認識が不十分と思われる。今後研修会を開催し、理解を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を説明し、契約書も確認して頂き、納得した上で捺印を頂く。御家族様とは、暫くの間、密に連絡を取りながら誤解や不安が生じないように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置を行っている。面会時には、御希望や、不審に思われる事はないか伺うように努めている。満床になれば、アンケート等の実施予定	家族には訪問時に意見や要望等を聞き取りし、ホームの行事に呼びかけており、家族同士の交流の機会として生かされている。玄関に意見箱が設置されているが、今のところ利用は無く、満床時にはアンケートや家族会を立ち上げる意向である。入居者は何事も直接職員に話されている様子に、両者の良好な関係が確認できた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回代表へ匿名希望可の手紙を全職員が提出して、対応して貰っている。又、ホームの全体会議等で意見、改善点を話し合いをしている。	管理者は日々ケアに入りながら職員とのコミュニケーションを図り、職員から出された事案はできることには随時対応し、できない事案は管理者を通じて上層部に具申することとしている。また、開設して日が浅く、勤務体制や物品の整備の他、業務改善として毎月会議の中で話し合いを行っている。また、代表との個人面談や毎月代表への手紙により意見や提案等を挙げる等サービス向上に邁進している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員が安心して、長期に働ける環境のひとつとして、退職金制度導入。又会議手当、誕生日のお祝い等働きやすい職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的な外部研修への参加ができるように費用負担を行っている。マンツーマンの教育については、人員不足等で一部しかできていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	参加機会が今までなかったが、今回入会することが出来た。菊陽町でグループホーム協会ができていますので、来月から参加予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を共有し、入所初期は、細目に声掛けを行い、又統一したケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問で、御家族、御本人と面談し、状況把握やケアへの意向を確認する。又ホームで、できることできないことを明確に説明し、御理解を頂く。全職員に対しては、情報の共有を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をもとに入所前にカンファレンスを開催。必要な支援を全職員で話し合い、情報共有、統一したケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、洗濯干し、たたみ、掃除等職員と一緒にしようとしている。お一人お一人に出勤時は、挨拶をして1日の始め関係作りから心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止め、共に本人様を支えていくという協力を大切に支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	これまでの培ってきた人生観や人間関係等把握し断ち切らないように努めている。	アセスメントによる家族の情報を生かしながら、馴染みの関係性を継続しようと努力している。家族との関係性を断ち切らないことが最重要として、訪問が遠のくとホーム側から訪問や行事への参加を依頼している。昔の職歴により盆栽の剪定や水やりをお願いし、散歩の途中に自宅近くに立ち寄りたり、訪問時家族との散歩など協力を得ながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性を見極めテーブルの位置を考慮している。トラブルが生じた場合は、間に入り孤立しない様に支援している。又、居室で過ごされるのが好きな方は、見守りや声掛けを定期的に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても御家族の訪問して下さることがある。入院された際は、状況を把握し、お見舞い、御家族への電話等で連携を取っている。状況については、その都度職員には、報告している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	仕事に入るときに、ご利用者への声かけをするとともに、日々の関わりの中で一人一人の思いの把握に努めている。カンファレンスの中で検討項目や意向など報告しスタッフで共有し支援している。	入居者に寄り添いながら、会話の中で思いを引き出しており、「カラオケに連れて行ってほしい」とする思いに応えホーム内でカラオケ大会を開催する等その時々々の希望に対応している。また、時には家族に代言したり、表情を推察しながらケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者、ご家族、担当ケアマネ、利用されていたサービス事業所、主治医など関係機関から情報収集し、ご本人の状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者のこれまでの生活や嗜好等の情報を取り入れ、個人を尊重しその人にあつた介護や趣味の提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族より生活歴など情報を聞き取りし、まずはご利用者の理解に努めている。カンファレンス、モニタリングにて現状の検討を行い、介護計画に取り入れている。	管理者・ケアマネジャーや家族との話し合いにより算定プランを作成し、全体会議でのカンファレンスをもとにしたモニタリング(担当職員とケアマネジャーによる)等職員の意見を聞きながら正式なプランを作成している。介護保険更新に合わせた見直し、及び状態変化には家族と相談しながらプランを修正することとして再作成時に向けまずアセスメントを取り直している。本人の気持ちと状態に応じた現状に即したプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子の記録を行いながら、きずきや問題点があればミーティングを行い、介護記録や連絡帳へ記入し、全員で共有しケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が関われない病院受診や緊急時の受診、身の回りの必要品の買い物、介護保険の申請などの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園、子育て支援センター等の交流をしている。又職員の子供達との交流も多く、外部との隔たりがないようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医が主治医の方が大半で、健康管理については、週1回の往診で対応し、ご家族へ報告している。状態に応じ、ご家族へ同意を得て専門医の受診を行っている。	これまでのかかりつけ医の継続や入居時に協力医による往診についての説明を受け、家族の意向で協力医に変更された方もおられる。また、訪問歯科(2箇所)や家族による皮膚科受診などホームと家族が情報を共有しながら必要な医療支援に努めている。職員は10時と入浴前などのバイタルチェックや月1回の体重測定、表情の把握や食事摂取状況を記録し、入居者の日常の健康管理やサポートに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴介助や日常の生活の中で、ご利用者の身体的状態を観察し、きずき、ご利用者からの訴えを看護師へ伝えたり、医療ノートを作成し、個々のご利用者への適切な対応、受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先からの入居にあたり、入院先の関係機関と連携、情報交換を行い、退院後も情報交換を図り、安心したケアが提供できるようにしている。ご利用者が入院されると、面会を行い入院先の看護師などから情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、重度化については、ご家族、主治医との連携を行い、想定される状態などの十分な説明をし、理解して頂けるように支援に取り組んでいる。	重度化や終末期支援については、入居時に家族に自然な最終であれば可能である事やその時の状況で話し合いを持っていくことを説明している。入居にあたっては高齢や病状などによるリスクについても説明し、急変時の対応については家族と書面で確認を行っている。また、看取りに関する研修会を開催している。	管理者はこれからも全職員で出来ることを支援していきたいと、ご縁のあった入居者や家族への思いを語っている。今後はできる事、できない事の見極めをはっきりと設定することや、職員のレベルアップに繋がる研修会の開催が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や特変時に備え、緊急時の勉強会をしている。感染症発生予防に備え、室内の消毒に勤めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、立ち合いの避難訓練を年2回行っている。他に消防機器の点検を業者に依頼し、何時でも使用可能な状態にしてある。最小限の備蓄はしている。	年2回昼・夜を想定し消防署の参加を得た避難訓練を実施している。訓練後の総評では、消火器は必ず床に置き消火する点などの指摘を受け、次回に活かすことが共有されている。また、消防機器について業者による点検が行われている。	今後玄関先に掲示板の設置などにより近隣地域に情報や取り組みを発信したり、炊き出し訓練の開催を呼びかけるなど有事に備えた取り組みに期待したい。また、運営推進会議や区長との連携により地域の中での連携強化が期待される。備蓄品については、チェックリストの作成を検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気を付け、個々の利用者様を尊重し、声掛けを行い、意思確認し、支援に努めている。	管理者は一人ひとりを尊重する支援や言葉のスピード、スピーチロックについて、事例を通してながら指導している。呼称は基本的に苗字にさん付けとしているが、その方の反応なども考慮し下の名前など、その時々で対応している。個人情報の使用にあたり家族の了解を得、面会簿も個別記入としている。また、身だしなみやおしゃれにも家族の意向を聞きながら、髪染めや化粧など入居してもその方らしく過ごせるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーション等、利用者がしたいことを確認し、決めていただいている。衣類等もお聞きし、選んでいただいている。 起床、就寝時間も、ご本人様の希望で決められる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何か希望や訴えがあった際は、受け止め勤務者間で話し合い、可能な限りご本人の意思に添える様に対応しているが、先送りになる事もある。心身の状態に合わせて散歩に出たり一人一人のペースに合わせる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容を始め、季節に合わせた服やご本人の好きな色や希望をお聞きし洋服を着てもらえる様に支援している。 行事の時などの希望があれば、女性の方には、お化粧の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物や季節の食材・献立(正月・ひな祭り・お花見・そうめん流しなど)を作り、又盛り付け・色彩などにも気配りし、五感で食事を楽しめるよう努めている。	入居者の好みや旬の食材を取り入れた食事を提供している。特に行事食(ひな祭り・ソーメン流し・恵方巻き・誕生会など)や5月の新茶会、ギョーザパーティ、職員の特技を活かしたケーキやラテアートなど工夫された食事の機会が作られたことが聞き取りや記録により確認された。特に入居者にとって新年を迎えるということは、感慨深いものであり元旦の料理も朝食(雑煮)、昼食(おせち・赤飯)など配慮されている。また、焼肉パーティなどでは、「ビールが飲みたい！」のリクエストに応え、ノンアルコールのものを準備し、笑顔で飲みほされたようである。	食事支援については業務が優先になり、介助が後回しになっていることが会議録に記されていた。食事時の洗い物の音は雰囲気損なうことや入居者のペースを急がせてしまうため、職員は見守りや声掛けに努めることが望ましいと思われる。また、入居者と同じ物を同じ量食することで、その時間を共有できることから、今後は検食を兼ね一人だけでも同じものを食べることができないか検討いただきたい。また、その感想を記録に残すことも必要と思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが取れ個々の状態(かゆ・減塩食など)で食事を提供している。水分制限のある方には、量を測り一日の目安をスタッフで共有している。又、夜中にトイレ起きた方にも水分補給を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、口腔ケアを実施している。夜間に義歯の洗浄を行っており、歯科医の指導のもと、歯間ブラシやスポンジを使用し適切なケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄間隔の把握と声掛け・体動、訴えにすぐ対応行いご本人様の習慣・トイレの前兆等を活かした支援を行っている。	個々の排泄状況や間隔を把握し、表情やしぐさなどから声かけや誘導を行うとともに、訴えには速やかに対応し失敗のない排泄に努めている。誘導方法の共有や職員の配慮によって自立への改善が図られ、本人の自信や家族からも感謝の言葉が寄せられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために個々に応じて、毎朝麦茶や牛乳を飲んでもらっている。また、毎日の体操を促したり、腹部マッサージなど適宜行っている。食事については野菜を多く取るように献立の工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日ご利用者様の体調や状態をチェック、把握し、希望に応じて実施している。清潔維持も含め足浴・清拭なども行い、パラ風呂・柚子風呂・菖蒲湯など季節風呂も提供している。	お風呂の満足を味わえるようゆっくり入ってもらうことを大切に、一番風呂を順番にしたり、菖蒲や柚子・バラなどの季節湯を取り入れながら一日置きに支援している。必要があれば足湯や、シャワー浴の場合はかけ湯をしっかり行うようにしている。また、開始時間を9時で実施したところ、入居者に好評であり、遅出の時間を変更することで継続されている。職員は本人ができる洗いは見守りし、できない所(足指間など)、細かい所まで洗えるよう綿タオルが準備されており、足拭きマットの管理など衛生面への取り組みも確認された。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のご気分や体調を常に見守りながら、居室の環境を整えて静かにゆっくり休める様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が服用されている薬の効能、副作用について、薬局からの情報で確認している。薬の変更や頓服薬についても、医療ノートや朝夕の申し送り時に確認し、職員全員で把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の身体状態に合わせ、洗濯物たたみや掃き掃除等を手伝っていただいたり、塗り絵やトランプ・カラオケ等楽しんでいただける事を毎日取り入れながら生活の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	洗濯物をたたんで頂いたり、調理のお手伝いをして頂いたり、ホーム近辺を散歩したり、利用者様の声を大切にしている。	入居者の現状から全員での外出やその日の希望にそった外出は少ない現状であるが、近隣は交通量も少なく、外に出ることで安心される方など状況に応じ可能な限り対応している。また、「どっか連れて行ってくんね〜！」に応え、物産館に出かけ饅頭やアイスをおやつに食するなど、計画した外出に限らず入居者の一言を大切にしてお出かけている。家族との誕生日の外出やお盆の帰省・墓参をはじめ外食など協力が得られている。	今後は必ずしも車を使用した外出に限らず、裏庭のデッキ同様縁側を活用しお茶の時間などを楽しんでいただきたい。また、車椅子や外出が困難な方も、会議室の窓側に移動して、陽光を浴びながら玄関先の庭木や近隣の様子、車の往来を眺める機会を持たれることが期待される。また、外出の様子を発信することで家族の安心や協力の機会を後押しするものと思われる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理されている方もありますが、ご自分で管理できない方は、預り金規定に従い預かり、ご利用者の状態、希望に応じた買い物 の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、家族への電話の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるものを飾ったり、季節に合わせた共同作品を作り、飾り、皆で、鑑賞する。温度・湿度に注意して朝・掃除時は自然な風を取り入れる様にしている。又、テラスを利用して季節を肌で感じられるよう努めている。	玄関から入り、共有の台所を中心に左右に配置されたユニットホールをはじめ、通路や会議室などホーム内は木の温もりでゆとりある空間となっている。その木目を良さを損なわず、床に傷をつけることのないよう椅子やテーブルの移動に十分配慮することを会議で共有している。個人の塗り絵や共同制作品は壁面に飾られ、来訪者にも紹介されている。また、温湿度は様々な入居者の年齢層や身体状況に応じ管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブルやリビングソファ等相性などを考慮し、テレビ鑑賞や会話等、気の合った仲間を楽しめる様。又思い思いの居場所で過ごせる様努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、利用者や家族の写真やスタッフと共に作った作品を飾っている。また、居室内は、家具の配置を考慮し、ご本人の馴染みのある物を飾り、落ち着ける空間作りを行っている。	入居後も安心して生活できるよう、家族へ馴染みや必要な品の持ち込みを依頼している。チェストなどの家具や本、空気清浄器をはじめ、季節に応じた寝具の持ち込みが行われている。これまでの習慣でタオルケットをシーツに使用される方、好みの飲料水が切れることのないよう居室にストックされている方、切花によって穏やかな空間の作られた部屋など家族の思いが伝わって来る。職員はこれに応え、日々の掃除や布団の日干し、物品の配置による安全な空間などに取り組んでいる。	居室で日記を書かれる方(職員が木箱で管理)や自室で休養される方に安心されるような声掛けなど居心地良く過ごせるような支援が確認された。今後は、居室入口に設けられた窓枠を、家族の協力や職員のアイデアを生かした掲示コーナーとなる事を期待したい。また、使用されていないポータブルトイレについては、別の場所で保管・管理されることが望ましいと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全を確保しながら、本人の得意な事、出来る部分を活かしたケアを行っている。		